

テーマ展「動物サポーターの7年」②

「ほっとやまはく」
タイム⑧



動物の標本作製

博物館では、昆虫類、貝類などの無脊椎動物から、哺乳類・鳥類などの脊椎動物まで多岐にわたる動物を標本として収蔵・保管・展示しています。例えば、タヌキ、ニホンアナグマなどの中型哺乳類の多くは、交通事故



中型哺乳類を解剖するホネコグループ

に遭った個体を県民の方

います。

から届けてもらい標本にしています。届けられた個体は、いったん冷凍し、博物館の学生サポーターである山口大のワイルドアニマーズの「ホネっこ」の会で順次解剖して

います。解剖から標本作製まで次のような流れで行います。解凍した個体の体重や各部位を計測し、タニなどの外部寄生虫の有無を調べます。毛皮部分と骨格を含む筋肉部分は、メスを使い分離します。毛皮は冷凍し、最終的になめし皮にします。筋肉部分は頭骨をはじめとする骨格や内臓があります。ながら骨格から取り外し、骨は各部位ごとに小分けし、骨格標本にしていきます。

方法は主に2通りあり、カツオブシムシなど

の肉食性昆虫に骨に残った筋肉部分を食べてもらい骨格標本を作る方法と、50〜60度の温度で1日から2日間煮る方法です。どちらも最後は手作業で、洗って乾燥し、部位ごとに袋に入れ、骨格標本が出来上がります。今回の展示では、ニホンアナグマ、タヌキ、ニトリアの骨格を標本箱に並べた全身骨格を展示しています。



タヌキの全身骨格標本

仮剥製標本

ネズミ類やモグラ類などの小型哺乳類は、ネコが採集してきた個体や、トラップによる生息分布調査で採集した個体を、



ネズミ類、モグラ類の仮剥製と骨格標本

仮剥製と骨格標本にしています。「仮剥製標本」は、生きているように形を整えた展示室で見られる「本剥製」とは違い、調査研究のための標本で、動物サポーターの方々が製作しています。メスの切り口は小さくし、毛皮部分に肢を残し、筋肉部分と分離し、毛皮の裏側にミョウバンとホウ酸を1対1に混ぜた粉末を塗り、頭の先から胴体まで綿を入れ、形を整え、切り口を縫い合わせ乾燥した標本です。

今回の展示では、ネズミ類・モグラ類は仮剥製

貝類コレクション



貝類は軟体動物の仲間

（二枚貝綱）、巻貝（腹足綱）、ヒザラガイ（多板綱）、ツノガイ（掘足綱）、イカやタコ（頭足綱）も含まれており、殻を持つカイダコの仲間も貝類に含まれます。貝類は食用、装飾、魔よけなど人々の生活に密接に関係する生物です。調査研究された収蔵標本は1万点を超えています。

貝類は軟体動物の仲間

今回の展示では、ネズミ類・モグラ類は仮剥製

「S-Net」で標本データ公開

収蔵されている標本類の多くは、これまで県内を中心に調査や研究をされてこられた方々の標本

です。21年11月現在、約660万件が公開され、山口博物館は、このS-Netに毎年登録して

テーマ展「動物サポーターの7年」は4月10日まで展示を行っています。

どのような標本が収蔵されているのかを発信する事業が行われています。それがサイエンスミュージアムネット（S-Net）です。国内の100を超える自然史系博物館・大学・研究機関に保存されている動植物を中心とする標本データを公開しているサイトで

S-Netに登録するためには、標本データを所定のデータ項目名と形式で整理する必要があります。和名から学名取得、学名の属名・種小名の切り分け、性別情報の英語化、採集日の日付の文字列形式変換、採集地の詳細確認、国・都道府県・市区町村名の英語変換・



ハエ目コレクション展示

山口県立山口博物館
TEL 083-922-0294
月曜休館（祝日の場合は翌日）。
最新情報はホームページで。



▽次回は3月9日です。